

米軍 沖縄に離島即応部隊

発足式典 基地負担増 懸念の声も

在沖縄米海兵隊は15日、沖縄県内に駐留する部隊を改編し、離島防衛に即応する「海兵沿岸連隊」(MLR)を発足させた。中国を念頭に、相手のミサイルの射程圏内を移動しながら攻撃する「遠征前進基地作戦(ETO ABO)」を担う中核部隊で要員は約2千人。日本

米で連携して抑止力を強化する狙いがあるが、地元では基地負担がさらに増すとの懸念も広がる。

MLRは昨年3月にハイウェイに初めて設けられ、沖縄で二つ目。三つ目も発足予定でグアムへの配置が見込まれる。第12海兵連隊を改編した第12海兵沿岸連隊(第12 MLR)の発足式典が15日、キンシップ・ハンセン(金武町など)であり、約200人が参加した。

第12 MLRのピーター・エルトリングハム司令官は「(南西諸島を通じて)中国の軍事防衛ラインの第1列島線にいることを誇りに思い、必要な任務に対応できる部隊だ」と語った。

第12海兵沿岸連隊の発足式典
15日前、沖縄県金武町

・防衛担当閣僚による会合で、第12海兵連隊のグ

アム移転を見直し、2025年までにMLRに改

編し、第3海兵師団司令部とともに沖縄に残すこと

を決めた。海兵隊は今後数年かけて要員や装備を追加するとしている。

11月上旬には、海上自衛隊鹿屋航空基地(鹿児島県鹿屋市)に一時的に嘉手納基地(沖縄県嘉手納町など)に移駐した。

標的の情報を即座に提供し、MLRの「日」となるとも言われ、作戦面で連携する可能性がある。

沖縄では、さらなる基

地負担への警戒感が強まる。MQ9は8月、配備されないなかでの配備には強い憤りを禁じ得ない」とし、抗議書を防衛省や在日米軍に出した。

オーバーランするトライブルを起した。嘉手納町議会は「事故原因が公表されないなかでの配備は強い憤りを禁じ得ない」とし、抗議書を防衛省や在日米軍に出した。

(鹿児島)

玉城トニー知事は、10月下旬の記者会見で「改編で県民にどのような影響が生じるかなど詳細な説明を求め、部隊の運用を注視する」と述べた。